

1. 家の周りの環境について

家のまわりの環境について、肯定的意見をみると、「小鳥や虫が見つけれられる」が最も多く、次いで「遊べる公園がある」、「空気がきれい」、「緑が多い」、「安全に歩ける歩道がある」と、**身近な自然や公園・田園環境、空気のきれいさ、歩道整備などに対する評価が高くなっている**。一方で、否定的な意見をみると、「川などの水辺で遊べる」が最も多く、次いで「ごみのポイ捨てがない」、「川の水がきれい」と、**川の環境、ごみのポイ捨てに関しては改善が求められている**。

2. 環境にやさしい取り組み

環境にやさしい取り組みについて、「ごみを分けてすてている」、「ものを大切に使う」、「水を大切に使う」、「自転車を道路に置かない」、「ペットを飼う場合は、近所に迷惑をかけない」、「生き物や植物などを大切にしている」は肯定的意見が9割を超えており、**ごみ捨てのルールやまわりに迷惑をかけないマナー、節水・節電などは、ほとんどの児童・生徒に意識されている状況**がうかがえる。特に、「ポイ捨てをしない」、「ペットを飼う場合は、近所に迷惑をかけない」、「自転車を道路に置かない」、「ごみを分けてすてている」、など、**マナーやルールに関する取り組みは、「している」の回答が7割を超えており、広く定着している**。

あまり取り組まれていない状況を見ると、「地域で行う道路、公園などのそうじに参加している」、「環境について家族と話すことがある」、「出かけるときはできるだけ電車、バス、自転車を（自動車に乗らない）」がと多くなっており、**美化活動等への参加や家庭での環境問題意識、自家用車に頼らない暮らしなどがあまり普及していない**。

小中学生の違いをみると、「多くの項目において小学生の「している」比率が高くなっており、中学生においてやや環境保全意識が低下している状況がうかがえることから、中学生に対する意識啓発が必要だと考えられる。

3. 「さむかわの環境って、どーなってるの？」の認知度

まちの環境についてまとめた「さむかわの環境って、どーなってるの？」の認知度については、「知らない」が合計82.2%と、ほとんどの児童・生徒に知られていない状況となっており、小中学生で比較しても、やや小学生の「読んだことがある」の比率が高くなっているものの、大きな差とはなっていない。今後は、**広報の方法やより分かり易い情報提供**について検討していく必要があると考えられる。

4. 環境教室や環境イベント、ごみ拾いなどの環境活動への参加状況

環境教室や環境イベント、ごみ拾いなどの環境活動への参加状況については、「参加したことがある」が合計23.9%であり、あまり参加は進んでいないことから、児童・生徒が参加できる環境活動等の機会の充実等の強化策が必要と考えられる。

5. 参加したことのある環境イベントや活動

参加したことのある環境イベントや活動については、「**ごみ拾い・草むしり等の清掃・美化活動**」をあげる回答が大部分を占めた。その他には、環境関連では「環境保全に関する各種講座・セミナー」、「自然とのふれあい・生き物調査などの自然体験」、「フリーマーケット」、「花だんの手入れ」、「親子環境バスツアー」などがあげられた。一方で、参加しなかった児童・生徒の理由としては、「知らないから」が合計46.1%と最も多くなっており、**情報や機会の提供方法**などが改善されれば、環境活動等への参加が広がる可能性がうかがえる。

6. こどもエコクラブの認知度・参加状況

こどもエコクラブの認知度・参加状況については、「知らない」が85.9%とかなり高くなっており、「知っていて、クラブに入っている」は0%と**認知や参加はほとんど進んでいないものの**、参加意向については、小学生において「入りたい」が6.7%、「どちらかと言えば入りたい」が25.3%と、計3割ほどの参加意向が示されており、**広報等を強化していくことで、活動が活性化する可能性がうかがえる**。また、小学生と比較して、中学生は参加意向の低さが目立っており、中学生に対する意識啓発も重要である。

7. 将来どのようなまちになって欲しいか

将来どのようなまちになって欲しいかについては、「緑が豊かなまち」が最も多く、次いで「水がきれいで豊かなまち」と、**自然の豊かさを求める意見が多くなっている**。小中学生を比較すると、小学生では「緑が豊かなまち」、「水がきれいで豊かなまち」など**自然の豊かさを求める意見が多く**、中学生では「便利で快適なまち」、「空気がきれいなまち」など、**快適さ・便利さを求める意見が多くなっている**。

8. まちの環境をよくするために、何をすればよいか

まちの環境をよくするために、何をすればよいかについて、「**ポイ捨てをしない、なくす**」が特に多くあげられ、また、「ごみ拾いなど、環境美化活動を行う」との回答も多く、**放置ごみ・ポイ捨てなどの問題が特に重視されている状況**がうかがえる。その他にも、自然・みどりに関する意見、道路・歩道に関する意見、公園に関する意見、商業に関する意見などが目立った意見としてあげられた。

9. 家のまわりの環境で好きな場所・その理由

公園をあげる意見が特に多くなっており、**児童・生徒が安心して遊び、心地よく過ごせる場**として評価されている状況がうかがえる。相模川・小出川・用水路などの水辺、寒川神社を主とする神社など、寒川町ならではの場があげられたほか、図書館、学校などの勉強や友達と過ごす場をあげる意見もやや目立っていた。

10. 家のまわりの環境できらいな場所・その理由

道路に関する場所が多く、その主な理由としては、幹線道路等における騒音問題、ポイ捨てや犬の糞など衛生美化の問題、狭い・車のスピードなど交通安全上の問題などとなっている。好きな場所としての回答が多かった公園においては、ごみのほか、遊具が古い、緑が少ない、暗いなど整備の不十分については問題とする意見が多く、また、トイレの汚さをあげる意見も多かった。

11. 全体のまとめ

小中学生アンケートにおいて、「知らない」との回答が最も多くなっていた設問が多く、広報や情報提供の方法に対する課題が明らかになった。児童・生徒にとって、「身近な自然や公園」は安心して遊び、心地よく過ごせる場として高く評価されている一方で、「ごみのポイ捨て」については改善を求める声が多くあげられていた。

今後は、情報提供等を強化することで、次世代を担う子供たちに環境について知ってもらい、これからの地域の環境について少しでも考えてもらうことが重要である。